

1 活動の設定理由

年度当初の「英語でできるようになりたいことは何ですか」というアンケートに、「字幕なしで外国の映画が分かるようになりたい」とか、「自分も英語のセリフを言ってみたい」と答える生徒が多くいた。しかし、実際の映画の中のセリフは、長かったり難しかったりして、「聞いている側に分かりやすく伝える」ということを目標にした活動には適さない。また、自分たちで劇を作るとは、生徒にとっては易しいことではない。そこで、教科書にある「Folk tales」のレッスンで、応用の活動として、誰もが知っている日本民話の「桃太郎」を英語で演じるという活動を、ライティングの指導の中で実践した。話の流れは十分に分かっているが、その内容を的確に伝えられるように、自分で英語のセリフを考えて、それを演じることによって、英語に対する自信をつけさせたい。

2 指導目標

- ①ストーリーを正確に伝えられるように、場面に適したセリフを英語で表現できるようにする。
- ②クラスメイトの英語劇の発表を通して、英語での様々な表現方法を理解できるようにする。

3 授業での位置付け

授業の中で、ストーリーを英語で書くという活動を事前に行い、その応用として、セリフ形式の英語で表現させる。準備が一時間、発表・まとめが一時間の、計二時間で実施する。

4 指導手順

- ①「PEACH BOY」を五つの場面に分け、クラスを五つのグループに分ける。
- ②自分たちが担当する場面のセリフを考え、スクリプトを完成させる。提出させて添削する。
- ③配役を決める。全員が劇に参加できるよう、一人一役とする。
- ④スクリプトを正確に読めるように練習させ、セリフを暗記させる。
- ⑤順番に発表させる。
- ⑥他のグループの発表に対して、相互評価をさせる。
- ⑦各グループのスクリプトを集めて、一冊の本にする。

5 指導上の留意点

- ①聞き手に分かりやすい英語で表現するように指導する。
- ②劇であることを意識させる。セリフを「言う」のではなく、登場人物として「話す」ように心がけさせる。抑揚、間、速さ、アイコンタクト、プロミネンスなどに注意させ、どうすれば正確に分かりやすく伝えられるかを考えさせる。
- ③発表をよく聞き、感じたことや良かった点などをメモさせておく。また、今後のために改善した方がよい点などもメモさせる。
- ④必要があれば絵や小道具などを用いるなど、効果的に発表するための工夫をさせる。

6 教材例

増進堂 *MAINSTREAM Writing Course* Lesson 32 "Folk tales" Peach Boy (p114-115)

7 資料

- 資料① セリフ作成スクリプト 資料② メッセージカード
資料③ 生徒が作成したワークシート

＜資料① セリフ作成スクリプト＞

Peach Boy

Characters & Casts

Narrator (	)	Dog (	)
Peach Boy (	)	Monkey (	)
Grandfather (	)	Pheasant (	)
Grandmother (	)	Demon (	)

SCENE () _____

() :

() :

() :

() :

() :

() :

参考

SCENE 1	導入の作成	桃太郎が生まれるまで
SCENE 2	場面の作成	桃太郎の成長、鬼の略奪行為
SCENE 3	展開の作成	鬼退治の決意と出発、犬・猿・きじとの出会い
SCENE 4	解決の作成	鬼退治に成功
SCENE 5	終末の作成	宝物をもって凱旋

＜資料② メッセージカード＞

MESSAGE CARD

TO GROUP ()

FROM GROUP ()

<資料③ 生徒が作成したワークシート>

・生徒が作成したスクリプト例

Peach Boy			
Characters & Casts			
Narrator (	)	Dog (	)
Peach Boy (	)	Monkey (	)
Grandfather (	)	Pheasant (	)
Grandmother (	)	Demon (	)
SCENE (1) <u>桃太郎が生まれた</u>			
(Narrator) : Once upon a time, somewhere, there lived a grandfather and a grandmother. The grandfather went to the mountain to gather firewood, and the grandmother went to the river to do the washing. Then, a huge peach rolled down the river.			
(Grandmother) "Oh! What a huge peach!!"			
(Narrator) She brought it back to her house, when the grandfather came back from the mountain, he was very surprised.			
(Grandfather) "This peach looks very delicious. Shall we slice it and eat?"			
(Grandmother) "Yes, let's!"			

・生徒が作成したMessage Card例

MESSAGE CARD	
TO GROUP (1)	
・ナレータが上手だった。 ・セリフを暗記していて、顔がこもみでいた。 ・協力している感じがした。チームとして感じ。 ・声もうりたまいと、もっと聞けってわかりやまいと思う。	
FROM GROUP (4)	

8 考察

本事例は、劇を演じるために英語を発話する力と、英語で演じられている劇の内容を理解する力の二つの能力を身に付けさせることを目標にしたものである。

文章を構成する単語一つ一つが表す意味に執着しすぎてしまい、文として伝える内容が意識できないために、英作文に苦手意識を感じる生徒がいる。このような状況を解決するには、使用する語句がもつ語法を十分に理解させることが有効な手段である。本事例においても、最初、生徒は日本語で話の流れを理解しているために、日本語でイメージしたセリフを一言一句違わないように英語で再現しようとしていた。そのため、作成したセリフが英語として意味をなさないという状況が見られた。そこで、直訳をするのではなく、一つの文として伝える内容を意識するように指導した。ま

た、グループワークを取り入れることによって、それぞれの生徒がもつ英語の様々な知識を活用し、聞き手にとって分かりやすい適切な英語の表現を用いたセリフを考えさせた。

自分たち自身が十分に発表の準備をしたため、英語での表現方法、適切な声量や話す速さなど、多様な視点で他の発表を聞いていた。その結果、生徒は様々な意見や感想をもち、最後の相互評価も熱心に行っていた。また、メッセージカードを英語で書いたり、英語と日本語の両方で書いたりしているグループもあった。生徒のモチベーションが高まることで、自発的な「学び」が見られた。

最終的に、随所に様々な工夫が見られる充実した発表会を行うことができた。活動に対する意識付けを図ることで、意欲的な取組が見られた。ライティングの授業では、和文英訳など与えられたものを書くことが多くなりがちであるが、これからもコミュニケーション活動を効果的に取り入れ、生徒の英語に対する学習意欲を高める工夫をしたい。

9 応用例

英語Ⅰや英語Ⅱで、レッスン終了時に、内容を劇にして、まとめや確認の活動としてもよい。また、教科書で扱う内容だけでなく、生徒オリジナルの劇を創作させるなどの応用例も考えられる。